

TRAFFIC SCOPE

交通参加者の行動を観察する

「TRAFFIC SCOPE」は交通参加者の行動観察を通じて、ドライバーやライダー、自転車利用者、歩行者に守るべきルールがあることを再認識してもらうための連載記事です。

クルマが歩行者の側方を通過する場合は安全な間隔をとるか、徐行を！

DATA 基礎情報

対面歩行中や背面歩行中の事故が起きている

平成 30 年中に発生した交通事故のうち、人対車両の事故は 4 万 8618 件。その半数以上は歩行者が道路を横断中に起きているが、道路を歩行している時の事故も少なくない。

歩行者がクルマと対向する対面歩行中の事故は 3047 件、歩行者がクルマに背を向けている背面歩行中の事故は 4539 件であった。道路交通法では、車両は歩行者の側方を通過する時、安全な側方間隔を保持するか、または徐行しなければならないと規定している。ドライバーがこれを遵守すれば、対面歩行中や背面歩行中の事故は防げるはずだ。

WATCHING 観察

歩行者と安全な間隔をとるドライバーが多かった

今回は朝の通勤時間帯に東京都練馬区の商店街（観察場所 A）と、神奈川県横浜市栄区の住宅街（観察場所 B）の 2 か所で、クルマが歩行者の側方をどのように通過するかを観察した。A、B ともに片側一車線で、両側に路側帯が設けられている。路側帯の幅は 70～80cm と、歩行者一人分のスペースしかない。A は駅に近い商店街の通りで、観察中は絶えず歩行者が駅に向かって足早に歩き、クルマも頻りに往来していた。一方、B は住宅街の生活道路で、歩行者、クルマともにまばらだった。A では、1 時間に歩行者の側方を通過したクルマ 230 台中 147 台（63.9%）が安全な間

隔をとっていた（今回は歩行者との間隔を 1m 以上とっていることを「安全な間隔」とした）。安全な間隔をとっていないクルマは 83 台（36.1%）で、その半数が徐行をせずに通過した。B では、1 時間に 91 台中 45 台（49.5%）が歩行者と安全な間隔をとっており、安全な間隔をとっていないクルマは 46 台（50.5%）で、その約 3 分の 2 が徐行をせずに通過した。安全な間隔をとらず、徐行もしなかった割合は A より B のほうが高かった。これは、歩行者が少ないことが理由の 1 つではないかと考えられる。A では歩行者が多いため、前を歩く人を追い越そうと路側帯から車道にはみ出してしまふケースもあり、それを考慮して間隔をとっているクルマもいるからだ。また、B を通行するクルマのスピードのほうが A のクルマより高く感じられた。



安全な間隔をとっていることでスピードを出して通過するクルマ（観察場所 B）

ADVICE アドバイス

安全な間隔をとるとともに減速することも必要

ドライバーには歩行者の側方を通過する時、安全な間隔をとったり、徐行するなど思いやりのある運転が求められる。今回の観察では多くのドライバーが歩行者と安全な間隔をとっていた。しかし、安全な間隔をとっていることで、スピードを出して通過していくクルマも散見された。対向車が来ない場面でも徐行するクルマは少ない。車道と歩道が分離されていない道路では、スピードを出して走るクルマが歩行者の脅威とな

る。また、朝の通勤時間帯は勤務先や学校、駅などに急ぐことに意識が向いて、歩行者は周囲への注意が散漫になっていることも考えられる。突然、路側帯から車道に出たり、道路を渡るなど、歩行者の不意の動きに対応するためにも歩行者の側方を通過する時は減速することが安全だ。歩行者においては、観察場所 A、B ともにスマートフォンを注視したり、操作している姿が目立った。クルマと接近しやすい場所では、歩きながらスマートフォンを使用することは控えるべきである。さらに、路側帯をはみ出す時や道路を横断する時は、前後や左右をよく見て、クルマの存在を確認してほしい。



対向車がない時は対向車線にはみ出して、歩行者と安全な間隔をとるクルマが多かった（観察場所 A）

観察結果



サイドミラーと歩行者の間隔が 50cm 以内に近づいても徐行せずに通過するケースもあった（観察場所 A）



前を歩く人を追い越そうと路側帯からはみ出す歩行者（観察場所 A）

●観察場所 A における歩行者の側方を通過するクルマの状況

クルマ (台)	徐行	徐行なし	小計
歩行者と安全な間隔をとった	19 (8.3%)	128 (55.7%)	147 (63.9%)
歩行者と安全な間隔をとっていない	41 (17.8%)	42 (18.3%)	83 (36.1%)
小計	60 (26.1%)	170 (73.9%)	230

観察場所 A / 東京都練馬区中村北 西武池袋線「中村橋駅」付近 観察日 / 3月12日 (火)
観察時間 / 8:00 ~ 9:00 天候 / 晴れ

●観察場所 B における歩行者の側方を通過するクルマの状況

クルマ (台)	徐行	徐行なし	小計
歩行者と安全な間隔をとった	8 (8.8%)	37 (40.7%)	45 (49.5%)
歩行者と安全な間隔をとっていない	16 (17.6%)	30 (33.0%)	46 (50.5%)
小計	24 (26.4%)	67 (73.6%)	91

観察場所 B / 神奈川県横浜市栄区笠間町 観察日 / 3月20日 (水)
観察時間 / 8:00 ~ 9:00 天候 / 晴れ



歩行者と安全な間隔をとらないクルマ（観察場所 B）



立ち止まって大型車をやり過ごす歩行者（観察場所 B）



どちらの観察場所もスマートフォンを操作する歩行者が目立った（観察場所 B）